

鈴木良雄議長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

これより採決いたします。

まず、日程第1、議案第28号、平成15年度長井市一般会計補正予算第10号の1件について、討論の通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

特別委員長の報告は、原案可決であります。特別委員長のとおりに決するに、賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

鈴木良雄議長 起立全員であります。

よって、議案第28号は、委員長報告のとおり決定いたしました。

次に、日程第2、議案第29号、平成15年度長井市国民健康保険特別会計補正予算第3号より、日程第7、議案第34号、平成15年度長井市介護保険特別会計補正予算第3号までの、特別会計補正予算、以上6件について、討論の通告がありませんので、討論を終結し、一括採決いたします。

特別委員長の報告は、原案可決であります。

特別委員長のとおりに決するに、賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

鈴木良雄議長 起立全員であります。

よって、議案第29号、議案第30号、議案第31号、議案第32号、議案第33号、議案第34号の以上6件は、委員長の報告のとおり決定いたしました。

次に、日程第8、議案第35号、平成15年度長井市水道事業会計補正予算第4号の1件について、討論の通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

特別委員長の報告は、原案可決であります。

特別委員長のとおりに決するに、賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

鈴木良雄議長 起立全員であります。

よって、議案第35号は、委員長の報告のとおり決定いたしました。

## 日程第9 市政一般に関する質問

鈴木良雄議長 これより日程第9、市政一般に関する質問を行います。

ここで申し上げますが、3月定例会は、市議会の申し合わせにより、会派代表、政党代表、個人の順に質問を行うこととされております。

なお、会派代表質問に限り、関連質問を認めます。質問の時間は答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

### 大沼 久議員の質問

鈴木良雄議長 それでは、順次、ご指名いたします。

初めに、会派代表質問を行います。

11番、議席番号13番、大沼 久議員。

(13番大沼 久議員登壇)(拍手)

13番 大沼 久議員 おはようございます。

私は、新政会を代表して質問をいたすものであります。

さる年は雷が多く、冷夏で気候の余りよくない年と言われています。しかし、穏やかな年明けでありましたが、その兆候ともとれる連日の大風雪であります。

連日の幼児虐待殺人や、公務員、警官までもの不祥事件、さらにはO157に始まり、コイ、牛、鶏など、食の安全についての危機的状況の報道があります。

去る4日は、ミスターこと、長嶋監督の脳梗

塞で倒れるの報道であります。私たちの年代のあこがれ、そして尊敬をしている監督でありますので、1日も早い回復と、アテネオリンピックでの活躍を願うものであります。

また、私的なことでありますが、1月10に妻の実家が出火し全焼してしまいました。その再建にいまだまならず、連日気が滅入っております。そんなこと、こんなことで、私の糖尿病も血糖値が安定せず、合併症が懸念されているところであります。口幅ったいのですが、このような状況が長井市の財政のように思えてなりません。なかなかよくなるが、ちょっと何かあると、すぐに転落してしまう、この現状だと思っております。

2000年に地方分権一括法が施行され、三位一体の改革が動き出し、その間、市町村合併問題と地方自治体の根幹を揺るがすことがありました。長井市においても、行財政改革にかじを取り、その現在推進中であります。先の見えない混迷の時代の中、予算の編成においては本当に努力されて、施政方針と予算編成に当たられた、そのことに評価をするものであります。

不況時になりますと、民間における構造改革、リストラの嵐は公共部門にも波及し、民間もリストラをしているのだから、公共部門もむだをせずにスリム化をしと言われております。この流れの延長戦上にあるのが行財政改革であります。公共部門のリストラ論議の中心は、内容の効率化より、規模を縮小することに終始しております。

官から民へと言われ、官が介入せず、自由に民間活力に任せよと言われております。需要が不足し、民間に活力が生まれないからこそ、不況が起こったのであり、ただ、民間活力を使えといても使いようがないのが現実であります。

そもそも官から民へのスローガンは、資金を官対民で取り合っていると理解していることから出てきております。しかし、公共部門の支出

といっても、結局は市民の皆さんから税金をいただき、公共事業や減税などによって市民の皆さんに返しているだけであり、要するに官から民への金の流れを官が仲介しているだけであります。官は民の異なるグループ間の金の奪い合いの代理人のようなものであります。代理人にとっては、どちらへ便宜を図ろうとも、予算の執行のみチェックが入るだけであり、公正、公平とはならなくても済んでおります。特定の団体や人たちの利便のみを図るという利己的な判断が許されると、民間の経済活動の停滞分を補完するという、本来の目的が損なわれます。したがって、公の自己規制が求められると考えます。

改革というのは、これまでに生じた赤字を単にゼロにすることではありません。改革を進めるには人づくりが大切と言われております。人づくりを無視した改革は決して成功しないとと言われております。

そこで、政治に携わる人も含め、官公と言われる人たちの意識の改革の徹底こそが、構造改革と相まって必要と考えますが、いかがですか。お伺いをいたします。

また、現在の予算編成は単年度主義で、予算で決めた金額はその年度内で使い切らなくてはならない使い切り制であります。余らせてしまうと、次年度の予算の獲得にマイナスとなるからであります。年度末になると、使い切るために、以前も現在もそうですが、カラ出張や割り増しだの不正が起こる原因ともまれております。

法的制度上不可能とは思いますが、ここで企業会計の考えを導入してみたいと思っております。事業の継続性や状況の変化、対応等にこたえるためにも、先ほど申し上げました意識の改革としても必要と考えます。

そして、努力により予算の何パーセントかの余剰を生み出し、今年のように、すべて一律削

+

減ではなく、政策にめり張りをつけられるようにすることだと思います。まさに百年の大計と考えるなら、目標は1%と思うし、今年が市政施行50周年なら、スタートにはまさにならなっていることだと考えます。この件についていかがですか。お伺いをいたします。

生涯教育を含む教育、介護問題を含む福祉と防災、さらには地域の根幹をなす食を考えた農業の振興にと重点のある政策を求めたいと思います。特にレインボープランの基本理念の実施を、スローフード地域確立に高齢者の皆さんの経験と活力を求めると考えます。

方丈記の「行く川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず」このことを最上川発祥の地、長井としては、まさに時の大切さを自覚してすぐにも事にかからなければと考えます。

以上のことを市長にお伺いをいたしまして、壇上よりの質問を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。（拍手）

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 大沼議員のご質問というよりは、ご提言にお答えをしながら、私の考えも述べさせていただきます。

まず、この意識改革と百年の大計という、まさに私は大沼議員のご主張のとおりだと思います。私なりに考えますと、意識改革の根幹は、役所の皆さんが、市民の皆さんの税金を原資にして給料をもらっていると。これは市民の皆さんの民間活動が主役であって、そしてそれに役に立つのが公務員なのだと。市役所というのは市民の役に立つところと書くではないかと。私も常日ごろそう思って職員等に訓辞等をしてまいりました。現実はまだまだ役人天国であります。例えば国家公務員の上級を受けられた皆さんは、300万ちょっとで就職はするとはいつても、課長ぐらいになりますと、年収1,500万、中央官庁の。最後にやめるときには、国会議員よりちょっと下とはいいいながら、年収2,500万

です。38年間、次官までいくと38年間は務めませんが、大体給料が4億、退職金が1億であります。

これは日本経済新聞で狂牛病の責任者であった当時の畜産部長であった熊野さんが事件の責任をとって退職したと、8,925万となるのですね、これが。こういう実態で、まず役人のうちに5億、4億プラス1億。

それから、今度は天降り、これはまず次官の給料なのですね、あの公団というのは。道路公団にしる、開発銀行総裁にしる、何しる。4年間で三つぐらい変わりますよ。4年間で給料が大体1億、退職金を調べてみたら、月給の80%掛ける在職月数と。これで大体4億ですよ。三つ、そして年金ももらうとなると、国家公務員の上級職というのは、一遍試験に受かってしまうと、血税10億もらうわけです。これ事実ですから。私も秘書のときに計算してみたら、何だ、これはと。十五三ということもあります。これは民間の皆さんが比較的税金を払わないで、サラリーマンは全部取られるという話ですね。そっくりそのまま当てはまるんですね。国家公務員の上級、県の上級、市役所、十五三ですよ。市役所の方は約3億、県は5億、これが一度の試験で後は保証されていく、だから、みんな東大に、公務員にと、これが今のまだ実態なんですよ。実力主義とはほど遠いんですよ。全体でも1999年の人件費プラス事務費、政府最終消費といいますが、83兆2,650億だと。これが2003年に見たら、91兆2,000億円あります。9%ふえているんです。長井市はこの5年間で、人件費は17.2%、人員も13%近く削減しているんですよ。国家公務員は上がっているんですから、9%。これで地方が改革をしていないなどと言えるためしが私はないと思うのです。そっくりそのまま中央の皆さんに返さなければいけない。まだまだ実情はこういうところにあると。我々ももちろんしっかりと改革をしますが、この改

革をスローガンだけではなくて、事実として数字として、今の中央に求めていく、これが市長会でも私は声を大にして言っておりますし、改革派サミットの皆さんの中で、具体的に提言しようと言っている中身でありまして、この意識改革については、地方もまだまだありますが、民間が主役で、民間の皆さんの税金から自分たちの給料ももらっているという、この改革はまだまだ不十分であります、全く改革が進んでいないのが国ではないかと、このごろ思うのであります。にもかかわらず三位一体の改革で負担だけを押しつけると。これが今の現状でありまして、私はやっぱり現状をしっかりと見て、打つべきところを一つずつやって、改革をしていく、これを小泉さんなり、今の指導者に求めたい、皆さんとともに、やっぱりこれは声を大にして言っていかなければいけないと思っているところであります。

おっしゃるように、私は、百年の大計というなら、人づくりですよ、人づくり。それがみんな受験競争で東大、高級官僚、こういうのではなくて、しかし、日本は現実そうではなかった。学校なんか出なくたって、学歴ではなくて学力であり実力である。松下幸之助さん、本田宗一郎さん、あるいは今、時庭に来ているマイクロソリューションの塚本勲さん、工業高校中退であります、彼は2,000億円の今の加賀商事を、加賀電子をつくられた。まだやっぱり経済的な競争は世界的な規模になりまして、グローバルスタンダードでありますから、実業家は本当の意味での実力主義になってきつつある。リストラというのも人員削減ではなくて、再構築ですね、リストラクチャリングですから。これが民間では少しずつ進んでいる、はっきり。官の世界で進んでいないというところをやっぱりただしていかなければいけないし、そのことをしっかりと教えることが私は教育だろうと思えます。

私は、入学式、卒業式なんかでも言うのです

が、地位や名誉や金ではないよ、人のためにどれくらい働けるか、役に立つかだ、言葉で言えば面倒見れるかだと。6年生が偉いのは1年生の面倒を見るからだと。大人が偉いのは子供の面倒を見るからだと。社長が偉いのは社員の生活、給料を安定させ、そして生活の面倒を見ているからだと。人の役に立つ、世のため、人のために役に立つということが、民間でやらなければいかんよということをお教えることが、私は人づくりの根本だろうと思えます。

小泉さんは米百俵と言いますが、それは単に使い道を別に後世のためにと申すだけの話であって、基本的にやっぱり民間主役で、自立をして、自分で企業を興して、そして少しずつ広げて、人を雇いながらも社会に貢献していく、これが私は一番大事なことで偉いことなのだと。ということを卒業式なんかでも申し上げますが、ぜひこういった方向に私は行かなければいけないのではないかと思います。

もう一つ、やっぱり個人の目標だけではなくて、国や県や市、この目標もどう生きるかという生き方も考えなければいけない。私は単純にものづくりで稼ぎ、食糧で世界に貢献するようになったらどうだ、これは一人一人がやっぱり大事なものをつくる、食糧もものづくりであります、まずやっぱり自動車だけではなくて、いろんな電子部品も何もあろうでしょう、中枢部品もあるでしょう、それでこれまで資源がほとんどなかった日本が、世界では教育レベルも高くて、人間という最大の資源を使ってここまでなってきたわけありますから、ここをしっかりと踏まえながら、ものづくりで稼いで、食糧で国際貢献をする、これが私は日本の根本にしたらどうだろうと。それは長井市もその根本で、その根本方針で、基本方針で行くんだと。これがやっぱり教育にとって必要ではないか。

3番目にやっぱり百年というならば、目指すべき社会の、いわゆるこういう状態だというこ

+

とで、私は何度も申し上げますが、これもチャンスが平等で二度でも三度でも挑戦できて、塚本さんに言わせると、大過なく人生なんていうのはおかしい、失敗は向こう傷だと。挑戦の証だと。何度でも挑戦をして、あるいは挑戦できる社会、そして結果がみんな平等だ、公務員の社会はまさにそうであります。大過なく過ごして、結果は、上級さえ受ければ10億円、こんな結果が平等だという社会ではなくて、流した汗が報われる社会、これが一つ。

2番目には、やっぱり一生懸命頑張ってきたならば、お年寄りの皆さんの年金、医療、福祉、これはやっぱり安定している社会、セーフティーネットがある社会、一人10万、夫婦で20万ぐらいの年金はちゃんと確保できるような社会、医療も高度医療まで、地域でもちゃんと受けられるような社会、福祉も自助、公助というのがあります、自分だけでできなくなったらやっぱり公助もあるけれども、みんなで支え合う社会、セーフティーネットの社会であります。

そして、私は3番目に、平和な社会、戦争の破壊はアフガニスタンでもイラクでもあのとおりであります。これがないような社会を目指すという日本の目指すべき社会のありようも教えていくということが私は大切なのではないかと考えております。

そういった意味で、大沼委員のこの意識改革、百年の大計というのは、私なりにそう考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

なお、この長井市の財政が糖尿病で合併症のおそれがありました。5年前は、借金386億、最低の財政ランク、サービスするにも金がない、一朝有事のとき340万、私は一番最初に銀行に確約を求めに行ったのを、市長になる前ですが、覚えておりますが、予算が足りなくなると、一番先に駆け込んでくるのかと、市町村の財政課に、この間、副知事にも言われましたね。このところないなと言うから、5年間、おれ、やっ

てないよと、そんなことは。私はそういうおそれがあったからこそ、市民の皆さんに、今の現状をしっかりと説明をして、その当時の議員の皆さん、職員の皆さんにご協力をいただいて、改革を進めてきたと思っております。

今、合併症ではなくて、先の明かりが少し見えてきた。例えて言えば、来年度からは公債費が7億円近く少なくなってくる、これは皆さんに今度はサービスで返せるという状況になってきた。386億も13年度で341億、市報で言ったとおりです。18年の3月には322億、これも何とかいけるのではないかと。職員の確かに我々はリストラクチャリングをしました。53人、13.25%、それから人員も12.7%減りましたけれども、サービスの質は落とさないように、市民の皆さんと協働で一緒にこの地域社会をつくっていくのだということで、NPOも四つ、今は二つ申請中、それから、シルバーの皆さんだって、長井西置賜のシルバー人材センターは山形県一、全国でもこの間表彰されました。ボランティアも山形県でトップクラスだと、よく高橋知事に褒めていただきますが、福祉を中心に。そういうやっぱり成果が見えつつある。少し先の明かりが見えてきたと、私は思っております。

やっぱり一律ではなくて、私も25歳から政治をやってきたとは言いながら、首長になって3年間必死になって勉強してきたつもりであります。今予算の一項目ずつ査定をしております。減らした部分の説明責任はすべて私にある、だから、今ちょっと我慢してくれと言われたときにも、この項目どうだと言われたら、私はお答えできるように、大事の細部は最後まで指揮するという基本に戻ってやってきたつもりでありまして、確かにことしなどは市議会の皆さんに調査費30%もカットしていただきました。恐らくないでしょうね、全国。山形県では初めてだと言っていましたよ、副知事が。おれのところもやろうかなと言っていますから、やってくだ

さいと、私は。きついときに、しかし、ある程度まで行ったら、やっぱりこれは元に戻さなければいけない。予算の使い切りだって、12年度だったな、たしか、6億5,000万の剰余を出したことがあります。これは口を酸っぱく言ってきた。民間ならば、予算を少なく使って効果が同じだったら、それは課長の力なんだと。剰余を出すことは、何も恥でも何でも無い、予算査定が甘かったということでも無い。仕事をして、効果はやっぱり行政評価であります、効果を出すことだということで、当時は6億5,000万、ところが、厳しく厳しく予算を査定しておりますから、今度は1億ぐらいしかなくなってしまったけれども、これも民間流の指導をしてきたつもりであります。

私は、おっしゃるとおり、時が大切であります。もう政策はマニフェストの時代です。時を区切って、3年で、5年で、10年で、ここまで行くのだと、数字もこうだと、だから、今ちょっと苦しいから我慢してくれ、これが改革でありまして、どこまで行くのかわからない、いつまでやるのかわからない、これでは改革とは言えない。期限を切って、時の大切さをしっかりと認識して、ある意味でマニフェストでこれからやっていかなければいけないというふうに思っているところであります。

私の演説が長過ぎますので、あとはやめますが、以上、ご質問にまたお答えをしたいと思います。ありがとうございました。

鈴木良雄議長 大沼 久議員。

13番 大沼 久議員 私の質問の倍、答えていただきましてありがとうございました。ちょっと再質問を忘れてしまった。

そんな中で、先ほども申し上げましたとおり、スパンをきちっと、そのときそのときの評価をきちっとこれが原点だと思います。

それと、もう一つは、そういう中で、公共事業の評価制度というものをやっぱり確立をして、

それをタイムリーに評価をしてあげると。長井市行財政改革推進本部の行財政改革推進実施計画進捗状況報告書というのをいただいておりますが、これにつきましても、やはり推進本部でやるのではなくて、もう少し見方を変えたところで評価を加えていくという方法を具体的にせねばならないというふうに思いますので、その点についてもお考えをお聞きしたいと思っております。

それから、先回の質問の中で、いつやったかちょっと忘れたのですが、目標管理のことを大分言ったつもりでありますのですが、その件も実施しているという話でありましたので、やはりこういう時代でありますので、職員の皆さんも自発的な政策提言の場がなければ、なかなか改革に実のある改革はできないというふうに思いますので、政策の提案制度なるものも、ここでどのように考えておられるか、お聞きをしたいところと思います。

千葉県市川市の市長が、この前、ラジオで言っておったのですが、職務採用の年齢枠制限を撤廃したと。それから、学歴も撤廃をしたと。本人主義をとりたいということで、あそこも定数削減をやっているそうですが、新規雇用において、枠を相当取り払って、今職員を求めたというような話も聞いておりますので、そういう考え方も一理あるなと思いますので、どうか公共事業の評価のあり方と、政策提案のあり方をどのように考えられるか、お聞きをしたいと思います。

そして、2番目の質問の中で、最後に触れたのですが、食のスローフードの実施地域としてレインボープランの基本理念を生かせないかと。特にスローフードは食の安全を求めているばかりでなくて、今までの地域のかかわる健康の源であるという食品を多く扱っている。せんだって、新政会のスローフード展ということで勉強してまいりましたので、その点が一番、これが

らのレインボープランの推進には不可欠ではな  
 かるうかと。特に高齢者の皆さんの知恵がこ  
 こに生きてくると。それから労働においても、高  
 齢者の皆さんでできることが、このスローフ  
 ードの食品の中に多くあるというようなことも見  
 てきましたので、その点についてのお考えをお  
 聞きいたします。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 まず第一のご質問で、事務事業  
 とか公共事業に対する目標管理等についてのご  
 指摘であります。

大沼委員のご提言に基づき、事務事業につい  
 てはご報告を出しておりますが、これはまだ不  
 十分だと私は思いますね。これはやっぱり民間  
 の皆さんの評価が必要なわけです。行政改革に  
 ついては、あそこに出ているのは、行政改革本  
 部の定数ですが、最初は10人の行政改革推進委  
 員会の皆さんがあれを参考資料にして評価をし  
 てもらうというふうにやっておりますから、こ  
 れは行政改革の場合は、少なくとも行政改革推  
 進委員会の皆さんの評価が、違う場合は違うと  
 なりますし、文言も変えろとか、ここはまだ足  
 りないとか、こういう民間の皆さんのが入って  
 おりますから、これはそういうシステムの方に  
 移行しつつあると思いますが、まだまだやっぱ  
 り公共事業、事務事業について不十分だと思  
 います。三重県の北川知事さんがやられたよう  
 なところを、なお参考にしながら、あれでも不  
 十分だとかという人もいますから、やっぱりこ  
 れからどういうふうにしたらいいのかというこ  
 とをぜひ検討をしてみたいというふうに思  
 います。

職員の皆さんの政策提言について、私は職員  
 の皆さんすべてと、これまでは年次別にやっ  
 てきましたけど、去年から、今度はもう出身別、  
 ということで、一つの合併とか、少子高齢化と  
 か、私もやりますが、その他すべてについて、  
 政策提言できるような、職員との対話をここ

年間毎年やってまいりました。それから生まれ  
 た政策等もあります、はっきり言って。それは  
 やっぱりそういった対話の機会を持ちながら、  
 それでも6割ぐらい、ですから、参加者の皆さ  
 んは仕事もありますので、それはやっぱり文書  
 等で政策提言ができるようにというふうに申し  
 ておりますが、そういうのはなかなか少ないよ  
 うな気がしますから、これはやっぱり活発にで  
 きるように、何がネックなのか、問題点なの  
 かも考えていきたいと思えます。

市川市なんかの年齢制限を取っ払うというの  
 も一つのこれからの検討課題だと思います。し  
 かし、1年だけ上げて、あとやめたとか、そ  
 ういうことのないように、やっぱりしなければ  
 いけないし、どういう仕事に、どういうのを公  
 募するかと。学校だって校長を公募していたり、  
 いろんなところが始まりましたから、やっぱり  
 公務員の仕事もそういうことは年齢制限とは  
 言わず、ある職種を開放していくということも、  
 十分これからの検討課題ではないかと思えます。

以上です。

13番 大沼 久議員 どうもありがとうございました。  
 スローフード。

目黒栄樹市長 ご指摘のようにスローフードと  
 いうか、食の安全・安心ですね。これがもう大  
 問題ですよ。私はやっぱり今度畜産堆肥が野  
 積み禁止になります。あれはある意味でチャ  
 ンスととらえて、畜産堆肥は全部長井市の場合  
 には、土に還すんだというシステムをつくら  
 うよと、農林課に指示をいたしました。11月  
 までにあわせて、内側の方は生ごみまで全部  
 レインボーでやっているわけですが、外側の方  
 は、畜産堆肥と生ごみをまぜて大規模農家の  
 皆さんは自分でやっていらっしゃいます。こ  
 れはもう一時化学肥料に頼っていたのが、も  
 う土に還すということになってきた。歌丸で  
 も大規模にやっておりますが、ただ、畜産  
 だけやっている人の堆肥を、だれが引き受  
 けてどこにまくかという

ようなところもちゃんとしていかないと、だめなわけですし、そうやって、畜産堆肥がすべて土に還るとなれば、長井の一つの食の安全・安心に、これはやっぱりレインボープランの精神にのっとっていると思うのですね。循環で、畜産とも共生し、やっぱり安全・安心ですし、土を大事にするということでもありますし、ご指摘のスローフード等について、特に高齢者等もおやりになることもあるというご指摘ですので、具体的にここでもいわゆるいろんな場でご提言をいただいて、できるところから実行してまいりたい、採用してまいりたいと思います。

以上です。

鈴木良雄議長 大沼 久議員。

13番 大沼 久議員 今、お答えいただいたわけですが、最後に、その答えられた中で、野積み堆肥ができなくなると、蓄ふんの野積みができなくなるというふうなことから、その囲う堆肥舎ですか、そういう建物に対してまでも補助金があるそうですけれども、私はこういう補助金体制を建物とか、それから設備とかに補助金として、全体の収入の中にあるような計画になるようなことは、これからはやっぱりやめるべきだと。これも一つ事業計画の中に含まれる相対の中で考えていただくべき、こういうところにやはり企業的センスを入れていただいて、お金は貸し付けということになって、将来返してくれというぐらいまでしていながら、産業の振興に当たらなければ、将来、残された負担の多い世代が困ってしまうということが年金と同じようにあると思いますので、今後のそういう、何といいますか、設備等に関する補助金のあり方ということについて、一言お伺いしたいと思います。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 基本的には大沼委員のご指摘のとおりだと思います。レインボープランも6億数千万のうち、2億4,000万ぐらいかな、国、

県からやっぱり補助金をもらっていたのですね。ところが、みんなご視察になってやろうとすると、もう補助金がほとんどなくなっちゃったものだから、なかなかやれないというのが現状なのです。現実にもう国なんかは補助金の猛烈な削減をしておりますから、大変難しくなってますけれども、ただ、私は基本は、いわゆる畜産の場合に、畜産だけのところを大規模に人里離れたところに施設をつくる、公共的につくるなんていうところもありますが、これはやっぱりちょっと、本当に考えものだなと。田んぼの真ん中に、ある程度屋根があって、あとビニールで上げ下げできるぐらいで、おおいなんかシャットアウトできますと、特にすぐ鶏舎とか畜産舎のところならばともかく、ある程度さえ、集めたものであれば日々薄れてきますし、あるいはおおい等も、これから高畠なんかは熱、あるいはマークさんなんか非常ににおいをなくそうという努力をなさっていらっしゃるわけですから、どんどん進歩してくると思いますし、田んぼの真ん中に簡易なもので、やっぱり集めて、そして、それはその周辺の田んぼにまくというのを、前の昭和30年代の各地の、今の時期、肥運びが終わって、春になったら、我々は肥散らかしをしたわけですが、ああいうやり方なのではないかと。それを少し集团的に計画的にやる場合に、土地等については難しい。本当は自分の土地にやるのに文句つけられるはずはないのです。今の場合、農業地の農業にあれするのは、ただ、建物等について、モデル的にまず各地区一つぐらいやっついこうというときに、これはやっぱり若干の、単独であっても、ある程度はやっぱり援助した方がそれが済むのかなということも思いますが、財政との絡みもあり、ご指摘のあれがあり、ただ農業の場合、他の産業に比べれば、借金の返済のスパンが短いんですよね、はっきり言って。他の産業、30年、50年だってあるのに、製造業とか何とか、

+



これやっぱり10年、15年ですから、こういったところの整備もまた必要だろうと思いますし、ぜひひとつレインボープランの根本を生かせるような、安全・安心な農産物づくりのために、いろいろと知恵を絞りながら、一つずつ実践していきたいというふうに思います。

以上です。

鈴木良雄議長 大沼 久議員。

13番 大沼 久議員 今、お答えいただきましたのですが、一般企業でいいますと、運転資金5年です。設備が7年ということで、国民生活金融公庫からは大体スパンがなっております。したがって、やはり農業もその感覚を持たないと、今までなぜ農業が自立できなかったかといえば、補助金がやっぱりあったと、すべてにおいて。そのことを補助金は補助金としてもらいながら、収入の一部に加えていたということがやはり大きな伸びれない状況だと思うので、これからの補助金のあり方は、やはりそこに企業のセンスを持ちながら、一般の企業の皆さんが努力している、その過程の努力もみんながやはり分かち合うということが大切だと思いますので、その点について、抜本的にやはり長井として取り組む姿勢をもう一度お伺いしたいと思います。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 基本的におっしゃるとおりだと思います。高度成長のとき、日本長期信用金庫、長期という名前つけますね。興業銀行なんていうのは、相当、業界団体にはべらぼうに貸したのですよね、長期にわたって。個々にはそのとおり短いわけですから。やっぱり大沼議員の地元の産直、一銭も補助金なんて欲しいとも何も言ってこないのですね。これが皆さんが土地を出し合って、こう片屋根をつくって、雪の間は今あれですが、初年度400万、次1,200万、2,200万、4年目で3,400万、それは1億円を目指すと、これは「伊佐沢の未来を語る会」で高

らかにうたい上げられておりますが、これはやっぱり一つの大いに参考になると思いますね。歌丸の里なんかもはっきりそうなのですよ。補助金をもらうために、どれくらい書類があって、時間かかって、手間かかるんだと。そんなものだったら、企業努力でやるんだというので、あそこほとんど補助金なし、というところが伸びているんですよ。堅実にやっているんですよ。補助金ないからだめだなんて言ってないのです、本当の人たちは。というところもしっかり理解しながら、皆さんにも補助金、補助金という人にはそのことをお話ししておりますが、やっぱり姿勢としてはおっしゃるとおりだと思います。

13番 大沼 久議員 終わります。

#### 鈴木武次議員の質問

鈴木良雄議長 次に、順位2番、議席番号16番、鈴木武次議員。

(16番鈴木武次議員登壇) (拍手)

16番 鈴木武次議員 おはようございます。

今定例会で政和会を代表いたしまして、私が質問をさせていただくこととなりました。よろしくお願いを申し上げます。

長井市の行政能力の発揮で、地域全体がなお一層豊かさと活力に満ちることを願いながら、通告してあります点について、市長、教育長、企画調整課長、建設課長の皆様からご答弁をいただくものでございます。

まず、市長の施政方針をお聞きして、私が感じましたことを申し上げてみたいと思います。

市長は、「自主・自立」を訴えられまして、バブル崩壊後の厳しい低成長期に、財政再建に取り組み、もたえ苦しみながら今日まで5年間来たなど、こう思います。就任をなされて、ようやく6年目というところでございますけれど